

2012年1月31日

JM エナジー、リチウムイオンキャパシタ「ULTIMO[®]」が中部電力株式会社・株式会社明電舎 共同開発の「リチウムイオンキャパシタ式短時間停電補償装置」に採用

JM エナジー株式会社（社長：宮部五郎）は、リチウムイオンキャパシタ「ULTIMO[®]（アルティモ）」が、中部電力株式会社（代表取締役社長：水野明久）と株式会社明電舎（代表取締役社長：稲村純三）が共同で開発した、落雷による停電などから工場の生産設備を一括して守る「リチウムイオンキャパシタ式短時間停電補償装置」に採用されましたことをお知らせいたします。

同装置は、2011年12月から、JSR株式会社（社長：小柴満信）の四日市工場にてフィールド試験を開始しております。今後2年間のフィールド試験により実稼働状態における補償動作の確認と連続運転による長期信頼性の検証等を行い、信頼性の確認ができれば、2014年から株式会社明電舎が商品化する計画です。

工場の生産設備などにおいては、落雷などの影響により停電が発生すると、誤作動や停止の原因となり、大きな損害を生じる恐れがあることから、停電補償装置の更なる補償時間長時間化が求められています。そこで、中部電力株式会社と株式会社明電舎では、従来の電気二重層キャパシタに比べエネルギー密度が高く、約3倍のエネルギーを蓄えられるリチウムイオンキャパシタを採用することにより、20秒程度の停電まで対応可能な、リチウムイオンキャパシタ式短時間停電補償装置を開発しました。そして、当該装置にJMエナジーのリチウムイオンキャパシタ「ULTIMO[®]（アルティモ）」の長時間での品質維持性能が見込まれる点が評価され、採用されました。

リチウムイオンキャパシタ式短時間停電補償装置は従来の電気二重層キャパシタ式に比べて、大容量・長時間補償を可能にするほか、長寿命のリチウムイオンキャパシタを採用していることから、蓄電部の交換は15年間不要で、鉛などの重金属を使用しないため環境負荷も小さくなります。

JMエナジーは、リチウムイオンキャパシタの事業会社として世界に先駆けて2007年に設立されました。2011年2月には世界で初めて、扁平角缶型リチウムイオンキャパシタ及び制御モジュールを開発し、12月には扁平角缶型リチウムイオンキャパシタ本格生産を開始するなど、次世代蓄電デバイスであるリチウムイオンキャパシタ分野で、他社に先駆けた展開を進めております。JMエナジーでは今後も、業界最高レベルの品質性能のリチウムイオンキャパシタの安定供給を持って産業機械、建設機械、輸送機械でのピーク電流アシストやストレージ用途、バックアップ電源用途、電圧の標準化やエネルギーの回生用途など、低電圧から高電圧用途まで幅広い分野に展開して参ります。

以上



<短時間停電補償装置外観>



<リチウムイオンキャパシタ盤 (内部) >